

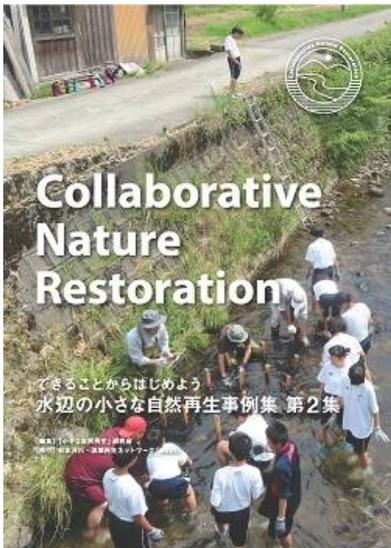
「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。(Since 2006)

目次	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ	1
➤ JRRN 会員寄稿記事	4
➤ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ	7

JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

小さな自然再生普及プロジェクト「水辺の小さな自然再生事例集 第2集」が完成しました！

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)は、2015年に「水辺の小さな自然再生事例集」を発行しています。この事例集の続編として、新規の事例を盛り込んだ「水辺の小さな自然再生事例集 第2集」を、全国の執筆/編集協力者の皆様のおかげをもちまして、2020年3月に発行しました。



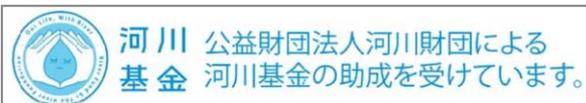
「水辺の小さな自然再生事例集 第2集」

PDF版のダウンロードはこちらから

→ <http://jp.a-rr.net/jp/news/info/1127.html>

前回の事例集に引き続き、市民が河川や水路の管理者と連携して日曜大工的に取り組める活動を紹介しています。今回の第2集刊行を通じて、小さな自然再生の関係者の皆様はもちろん、新たに活動に関心を持たれた方々など、全国の一人でも多くの皆様のお手元に最新情報を届くことを願っています。

ぜひ本誌をご活用頂き、この本が現場での新たな行動や、人と人とのつながりへの一助を担えたならば幸いです。



お寄せいただいた14事例の全国マップ

冊子版配布の延期について

- ・4月1日現在、新型コロナ肺炎対策としてJRRN事務局を一時閉鎖しております。事務局を再開次第、配布を開始しますので今しばらくおまちください。
- ・配布方法は4月中旬以降に改めてご案内する見込みです。

<謝辞> 事例集 第2集の発行にあたり、原稿執筆者の皆様、本誌のデザイナーである明星大学デザイン学部 本間由佳先生、企画構成で助言を頂いた東京学芸大学環境教育研究センター 吉富友恭先生、あとがきを通じてメッセージを頂戴した東京大学名誉教授 玉井信行先生を始め多くの方々にご協力をいただきました。

なお、事例集 第2集は、公益財団法人河川財団による河川基金の助成を受けて発行されました。

関係者・機関の皆様に、厚く御礼申し上げます。

できることから始めよう 水辺の小さな自然再生事例集 第2集

目次構成

はじめに…………… (日本河川・流域再生ネットワーク 代表理事) 土屋信行

1. 水辺の小さな自然再生とは

- 1-1. 小さな自然再生が果たす大きな役割…………… (兵庫県立人と自然の博物館) 三橋弘宗
- 1-2. 地域づくりと教育への効果～小さな自然再生の魅力として～…………… (滋賀県立大学 環境科学部) 瀧健太郎
- 1-3. 小さな自然再生の工法…………… (岐阜大学 流域圏科学研究センター) 原田守啓

2. 水辺の小さな自然再生を行うための留意点

- 2-1. 留意点…………… (滋賀県立大学) 瀧健太郎/ (岐阜大学) 原田守啓/日本河川・流域再生ネットワーク事務局
- 2-2. 安全管理…………… (岐阜大学) 原田守啓

3. 事例紹介

事例紹介 MAP

- 駒生川【北海道】…………… (駒生川に魚道をつくる会) 町田善康
- 豊平川【北海道】…………… (札幌ワイルドサーモンプロジェクト) 有賀望
- 創成川【北海道】…………… (札幌市役所) 工藤裕子・吉原康次/ (豊平川さけ科学館) 有賀望/ (札幌市環境保全アドバイザー) 渡辺恵三
- 久知川【新潟県】…………… (久知河内ホテルの会) 菊池秀夫
- 岩本川【愛知県】…………… (豊田市矢作川研究所) 山本大輔・吉橋久美子
- 武儀川【岐阜県】…………… (岐阜大学) 原田守啓/ (岐阜県 県土整備部 河川課) 中内惇夫
- 吉川川【滋賀県】…………… (NPO 法人 碧いびわ湖) 根木山恒平/ (滋賀県立大学) 瀧健太郎
- 家棟川【滋賀県】…………… (滋賀県琵琶湖環境科学研究センター) 佐藤祐一
- 福田川【兵庫県】…………… (福田川クリーンクラブ) 村上健一郎
- 吉野川【岡山県】…………… (エーゼロ株式会社) 岡野豊
- 日和佐川【徳島県】…………… (国立高専機構 香川高等専門学校 建設環境工学科) 高橋直己
- 三崎川【高知県】…………… (魚山研・研究会はたのおと) 山下慎吾
- 静間川【島根県】…………… (NPO 法人 緑と水の連絡会議) 森山俊信
- 朽網川流域の休耕田【福岡県】…………… (NPO 法人 北九州・魚部) 井上大輔

4. 巻末資料

巻末 1. 水辺の小さな自然再生の事例を募集中！ / 巻末 2. 「小さな自然再生」研究会メンバー募集中！

あとがき…………… (東京大学 名誉教授) 玉井信行

- 編集：「小さな自然再生」研究会 / ■ 企画・構成：(東京学芸大学 環境教育研究センター) 吉富 友恭
- デザイン：(明星大学 デザイン学部) 本間 由佳 / ■ 発行：日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)

1 事例につき 4 ページで全国 14 事例を紹介

(JRRN 事務局・澤田みつ子)

JRRN 事務局からのお知らせ (2) JRRN Activity Report

「桜のある水辺風景 2020」作品募集は中止いたします。

新型コロナウイルス感染症が拡大している状況を踏まえ、JRRN 事務局内で協議させて頂きました結果、3月10日(火)より募集を開始しておりました「桜のある水辺風景 2020」については、**作品募集を中止**とさせて頂きました。

募集中止前にご応募頂きました方々、これからご応募を考慮されていた皆さま、また応募作品を楽しみにされていた方々には大変申し訳ございません。

お住いの地域により状況は異なりますが、現在の状況を早期に終息させるためにも、自治体からの要請等を踏まえ、人混みへの不要不急の外出を控えるなど、おひとりおひとりが適切な行動を取るようになって頂ければ幸いです。

来年以降、本企画が再開できることを一緒に祈っていただき、来年には今年の方まで多数の作品をご応募できれば幸いです。

なお、昨年までの10年間における「桜のある水辺風景」作品募集企画でご応募頂きました作品のすべては、「桜のある水辺風景応募写真集」として全10冊をJRRNホームページよりご覧いただくことができます。

■「桜のある水辺風景応募写真集」紹介ページはこちらから

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/category/cherryphotos>

また、2016年以降にご応募頂きました作品はfacebookでもご覧いただけます

■「桜のある水辺風景」facebookはこちらから

<https://www.facebook.com/sakuramizube/>



昨年までの応募写真集の表紙の一例
(JRRN 事務局・和田彰)

JRRN 事務局からのお知らせ (3) JRRN Activity Report

小さな自然再生普及プロジェクト – 今年度は3回の小さな自然再生現地研修会を予定!

新年度を迎えました。JRRN では、今年度も水辺でできる小さな自然再生の全国への普及を通じて、地域に根差した川づくりの更なる推進に貢献してまいります。

今年度は、(公財)河川財団の河川基金の助成をいただき、2017年度までシリーズ開催しておりました「小さな自然再生現地研修会」の続編として、全国で3回の現地研修会開催を予定しております。新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、現地研修会の開催時期や開催地は現時点で未定ですが、昨年度制作した事例集も活用しながら、現地研修会の開催に向けた企画と準備を進めてまいります。

なお、2015年度～2017年度までシリーズ開催してきました全8回の開催報告は、右記ページよりご覧いただけます。

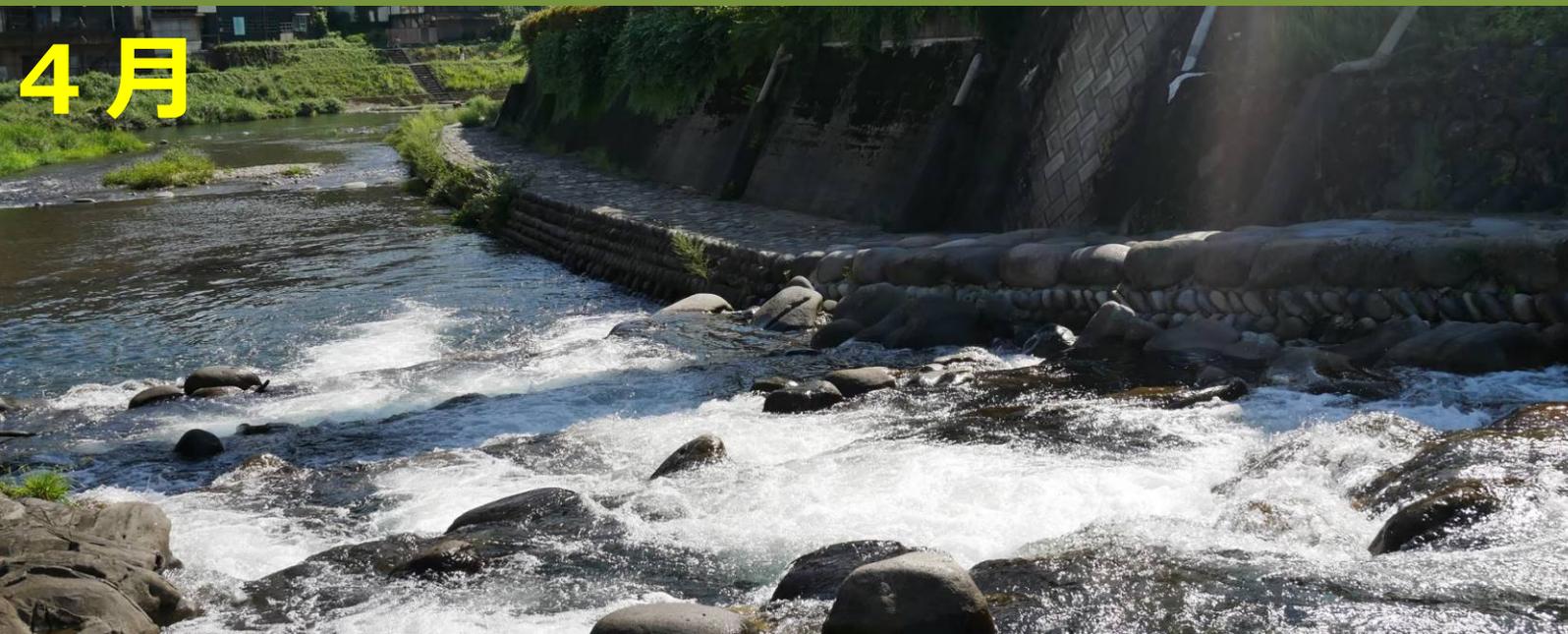
■「小さな自然再生現地研修会」開催報告等はこちらから

<http://www.collabo-river.jp/events/>



(JRRN 事務局・和田彰)

4月



岐阜県 吉田川 (2017年9月撮影)



あの日のあの川 リレー日記 ～第49話～



あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？ 幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

第49話主人公 官 尋

(筑波大学大学院 システム情報学研究科 構造エネルギー工学専攻 白川(直)研究室『川と人』ゼミ)

(■川ガール・□川系男子)

(出身地を流れる川：中国湖北省 漢江)

「川との出会い」

いつのこと？： 大学生！

どこの川？： 岐阜県吉田川，長崎県彼杵川・串川，香港林村河，など

とうとう私にもバトンが回ってきました。みんなどんなことを書いているんだろう...？と思って過去の掲載を覗いてみたら、驚き。みんなしっかりと川のそばで青春時代を過ごしてきているのではないか...！そんなみんなとは対照に、私は幼い頃や青春時代を振り返ってみても、川よりは海の方が先に出てきてしまいます。みんなのようにこの日記を書けるかな、と不安の気持ちを抱きながらバトンを受け取りました。しかし、思い返してみれば、大学に入ってから川の思い出は、いつの間にか、少なくない数となっていました。



岐阜県 吉田川 (2017年9月撮影)

私が、川 の存在を大きく意識したのはいつだったかと記憶をたどってみると、大学2年生の夏の記憶がぱっと出てきました。中学の友人を訪ねて行った岐阜県で、郡上八幡地区に連れて行ってもらった時のことです。正直なところ、当時の目的は、郡上八幡の古い町並みであって、川 のことは全く意識せずに行きました。いざ到着し、街を歩いていると、知らぬ間に川の方にたどり着いていました。綺麗な水に惹かれて、足を入れてみると、その冷たさと気持ちよさにびっくり！そのまま、ズボンをまくしあげて、友

人と夢中になって遊んでいたら、2時間ほど経っていました。その日郡上八幡を離れる時も楽しさをかみしめながらその綺麗な川を車の窓から眺めていたのを覚えています。

3年生になり、私は白川ゼミに入りました。元々まちづくりに興味があった私は、白川先生の「他と競い合うのではなく、地元の人に愛されるまちをめざす」という考えに強く惹かれて、このゼミに入ることを決意しました。このゼミがきっかけで、私はもつと多くの川に出会うことになったのです。中でも印象深く残っているのは、ゼミでフィールドの一つとしている東彼杵町を3年生の5月と8月に訪れた時のことです。そこは、川の周りにまちが集まり、人が集まり、自然豊かで落ち着いた雰囲気のある素敵なところでした。彼杵川と串川では、初めは躊躇したものの、川に入ってしまうと、いつの間にか、幼い頃自然の中で遊びと遊んでいたあの感覚を思い出し、夢中になっていました。また、地元イベントやプロジェクトに参加していく中で、地元の方が川を大切にしていること、自然を大切にしていること、そのまちを大切にしていること、誇りに思っていることが、ひしひしと伝わってきたのでした。

そんな地元の方に愛された川とまちを離れ、普段の生活に戻ると、自然と川を意識することが以前よりも多くなっていました。意識するようになったことで、東彼杵町とは対照的に、地元の人に関心を向けられていない川の存在の多さに気がつき、驚きました。特に、3年生の時に留学した香港で、コンクリートで固められた細い空間を流れる川を見たときはひどくショックを受けたことを覚えています。それでも、川を意識し、それに関わる方々と交流していく中で、このような状況を変えるべく、川やその周辺のまちをより良い空間にしようと奮闘している方も多くいることも同時に知ることができました。

川の楽しさだけでなく、川の危なさもゼミを通して学びました。2019年秋に台風19号が襲来した時のことです。同じ茨城県を流れる那珂川と久慈川の多くの箇所です堤防決壊や越水が起きました。水が引いた後、白川先生と現地に足を運びました。ニュースで見ただけでは実感できなかった、川のパワーの大きさを、圧倒されました。流された自動車、崩れてしまった堤防、曲がったフェンス、家財の泥をひたすら落とす人達、そしてその中を何事もなかったかのように流れ続ける川。．．その時に川の脅威を初めて実感したのです。



香港の林村河(Lam Tsuen River)。元々奥に見えるコンクリートで河床まで固められた状態だったが、再生プロジェクトで、約60mの区間だけ、手前側のような、河床のコンクリートを取り除き、植物を植えるなどしたところ、その区間では様々な鳥や虫が観察されるようになったという。

(2018年11月10日撮影)

しかし、それでも、私は川という空間が好きになりました。大学生活を通して川の魅力とその可能性の大きさに触れたことで、私の世界は間違いなく広がったと感じています。楽しい一面も恐ろしい一面もある川ですが、そのどちらもあからこそ、人と川との関わり、そして人と人とのつながりが生まれ、それは昔も今も変わらず、そしてこれからも続いていくのだと思います。

私はこの3月末で白川ゼミを卒業し、4月から新しいスタートに立ちます。白川ゼミを通して知った川という視点、川の魅力と恐ろしさ、そこから生まれた人とのつながり、それらを大切にしながら、私なりに励んでいきたいと思いません。

(次は笹目慈音さんにバトンを託します)

水辺からのメッセージ No.131

岡村幸二 (JRRN 会員)

次世代につなぐ橋： 明治 32 年の木橋から 3 代目 歴史を継承するシンボル橋



撮影：2020年3月（栃木県小山市・思川）

◆栃木市と小山市をつなぐ重要な橋

「観晃橋」の名前の由来は、「日光」を「晃」の字で表現し、日光連山の眺望を観ることのできる素晴らしさにちなんで命名されています。橋周辺の河川敷では夏には盛大に花火大会が開かれます。

◆市民が親しめる現代的イメージを求めて

1977年に旧橋が洪水で被害を受けたため、架け替えにあたり市民から「無機質な橋でなく人間性や美観に配慮した橋にできないか」という声を受けて、河川環境との調和を重視したデザインとしました。

■ 連載『水辺からのメッセージ』のバックナンバーは JRRN ホームページ内の以下のページよりご覧いただけます！

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/category/mizube>

JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ (2020年3月末まで提供分) Information from member

【JRRN 会員からの提供情報】

■ 「2019年 水辺のごみ見つけ！調査結果」のご報告

全国川ごみネットワークからのご案内です。

4年目の実施となる2019年度の『水辺のごみ見つけ！』の調査結果が公開されました。

新たな調査団体、調査件数がさらに増え、多くの地域で、多くの方々に水辺のごみを調査いただけたとことで、(調査団体数、調査件数ともに、前年より増加)。

◎ 調査結果概要

■ 参加延べ人数

9,305人 [前年：11,487人]

■ 調査件数

468カ所(27都道府県で実施)※

[前年：23都道府県 409カ所]

内訳：川 447 / 海岸 9 / 湖沼 12カ所

(その他、まち5カ所)

※同じ地点でも調査時期が異なる場合は複数件数としてカウント

■ 調査期間

2019年4月～11月

■ 調査・回収された総数

飲料ペットボトル 33,782本 [前年：44,506]

レジ袋 15,008枚 [前年：16,935]

カップ型飲料容器 2,087個 [前年：2,432]

◆ 詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3643.html>

水辺のごみ見つけ！2019 (全国水辺のごみ調査) の結果
=速報版=

水辺にはたくさんのごみが散乱しています。海洋プラスチック汚染の対策のためにも、水辺に散乱するごみの状況を全国規模で把握することは大切です。本調査は4年目となり、多くの方にご協力いただき、年々調査件数が増えています。ごみを調査することにより、水辺のごみへ目を向け、何でゴミがあるのかを考え、周囲の環境への関心を高めました。(調査期間：2019年4～11月)

◆ 調査状況

- 参加人数 **9,305**人
- 調査件数 **468**件
- 調査範囲(水辺の長さ) **221.35**km

(調査地別内訳)	川	海	湖沼	合計
飲料ペットボトル(個)	31,890	371	1,521	33,782
レジ袋(枚)	12,838	709	1,863	15,008
カップ型飲料容器(個)	1,844	151	292	2,087
調査件数(件)※	447	9	12	468
調査範囲(Km)	191.88	2.47	27.2	221.35
参加人数(人)	7,895	707	703	9,305

◆ 調査結果

- 飲料ペットボトル: **33,782** 個
- レジ袋: **15,008** 枚
- カップ型飲料容器: **2,087** 個

◆ 調査実施場所

北海道から九州までの468カ所(※)

◆ 調査実施の様子

4/17 猪苗代 (宮城県) 4/20 空堀川 (東京都) 4/28 谷田川 (大分県) 5/30 船場川 (群馬県) 9/29 鼻上川 (山形県)

本調査は、公益財団法人河川財団による河川基金の助成を受けて実施しました。

【海外からの提供情報】

■ RRC (英国河川再生センター) 会報 2020年2月号

RRC (英国河川再生センター) の会報 (2020年2月号) が事務局より届きました。

本号では、2020年の英国河川功労者応募やRRCスタッフ募集の案内、また河川再生事業の入札案内等が掲載されています。

◆ 詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3646.html>

RRC Bulletin
February 2020 - Issue 100

SCIENCE & TECHNICAL OFFICERS - RRC JOB VACANCY

2020 RIVER CHAMPIONS - NOMINATION DEADLINE 5TH MARCH

NEWS & EVENTS

Do you have experience using Teley Dams? Could you comment on their resilience towards flooding? We are looking for...
Deadline: 24th April 2020

Do you have experience using Teley Dams? Could you comment on their resilience towards flooding? We are looking for...
Deadline: 24th April 2020

【海外からの提供情報】

■ RRC (英国河川再生センター) 会報 2020年3月号

RRC (英国河川再生センター) の会報 (2020年3月号) が事務局より届きました。

本号では、新型コロナウイルス感染拡大に伴うRRC事務局運営状況、RRC総会の9月延期報告、英国の淡水魚に関する書籍出版予告等が掲載されています。

◆ 詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3649.html>

RRC Bulletin
March 2020 - Issue 101

RRC is still operating as usual - the team is working from home. We are still available to answer your enquiries...
Deadline: 24th April 2020

RRC CONFERENCE MOVED TO SEPTEMBER

NEWS & EVENTS

Do you have experience using Teley Dams? Could you comment on their resilience towards flooding? We are looking for...
Deadline: 24th April 2020

JRRN 会員募集中 JRRN membership

■ JRRN の登録資格 (団体・個人)

JRRN への登録は、団体・個人を問わず無料です。市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

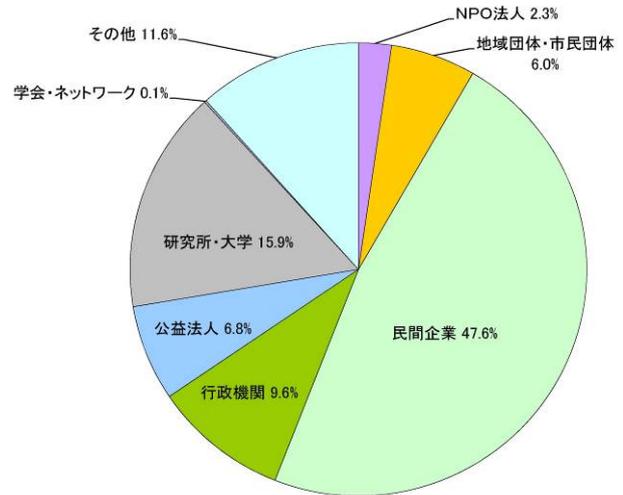
会員登録をされた方々へ様々な「会員特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週 1 回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2020年3月31日時点の個人会員の所属構成
 (個人会員数：800名、団体会員数：60団体)
 ※3月の新規入会数：個人会員0、団体会員0

JRRN 会員特典一覧表 (団体会員・個人会員)

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員 (一般)
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：<http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【お気軽にお問い合わせください】



日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局
 〒104-0033 東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号 NMF 茅場町ビル 7 階 (公財) リバーフロント研究所 内
 Tel:03-6228-3865 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net
 URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>